

Y03a はやぶさ2」がめざしている小惑星の名称案募集とその波及効果

矢部あずさ, 吉川真, 大川拓也, 生田ちさと (JAXA 宇宙科学研究所)

JAXAの小惑星探査機「はやぶさ2」がめざしている小惑星は、米国MITのによって発見され、仮符号で1999JU3と呼ばれていた。この小惑星に付いた名称「Ryugu」は、命名提案権を持つLINEARの厚意により、「はやぶさ2」プロジェクトから名称案をLINEARに提案させてもらったものである。名称のアイデアについては「はやぶさ2」プロジェクトの意向で一般からの公募とし、世界中から名称案を募集した。

名称案の募集は、2015年7月22日から8月31日のおよそ1か月間行った。応募はインターネット、葉書、JAXA相模原キャンパスの特別公開にて受け付け、合計7,336件の応募があった。選考は多数決ではなく有識者からなる名称案選考委員会が行い、神話由来の「Ryugu」という名称案を選び、2015年9月上旬にLINEARから小惑星センターに命名提案が行われた。承認までには通常3か月ほどかかると言われるが異例の早さで進み、2015年10月5日、小惑星センターの管理する小惑星名のリストに「Ryugu」が掲載されたことから、回報への掲載確認を待たず、国際天文学連合(IAU)の承認を得られたと判断しJAXAは記者発表を行った。

名称案募集については国内外のメディアなどで取り上げられ、「はやぶさ2」のミッションの知名度向上と、小惑星についての知識の普及に関して効果をあげた。一方で、応募総数は過去の探査機関連のメッセージキャンペーン等に比べて少ない数に留まった。本発表では、このことについて考えられる理由と、今後の公募型キャンペーン展開の際に留意すべき改善点を述べる。加えて、名称案募集を通じて決定した「Ryugu」という名称が世間でどのように受け止められているのか、また、名称の認知が社会にどのように広がり波及効果をもたらしているのか、参考となるSNS解析の結果を報告する。